

経営比較分析表（令和3年度決算）

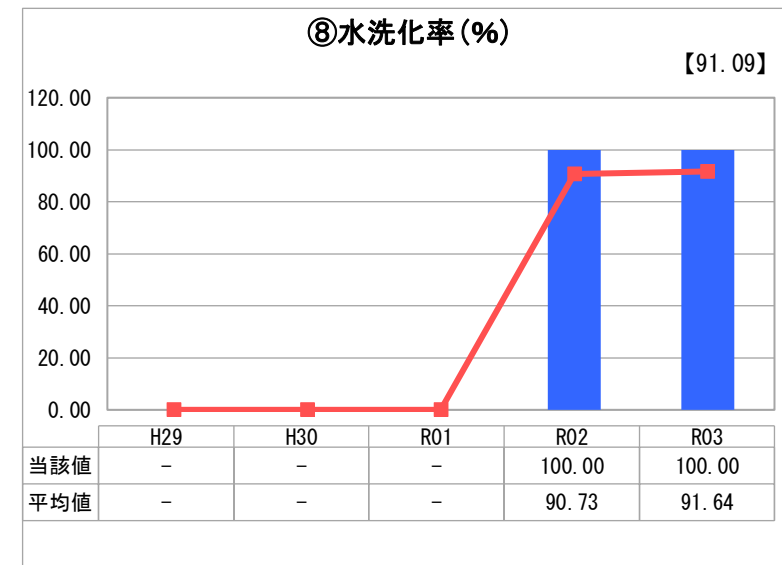
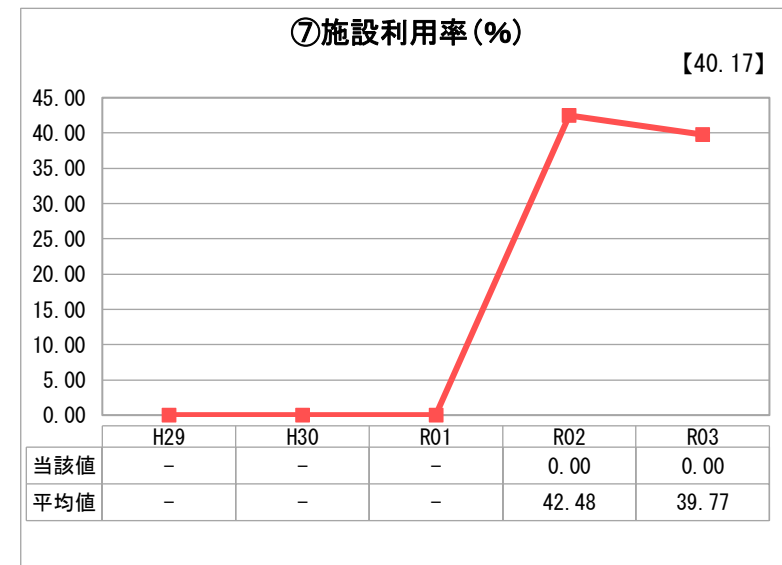
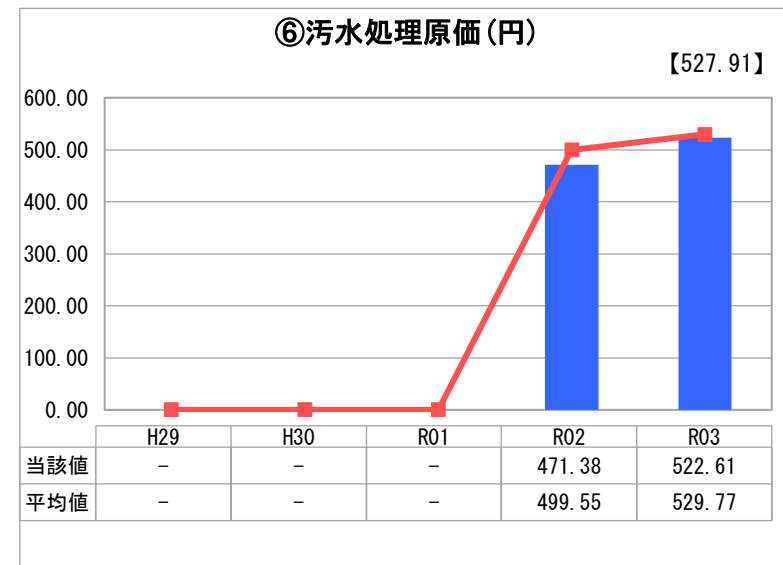
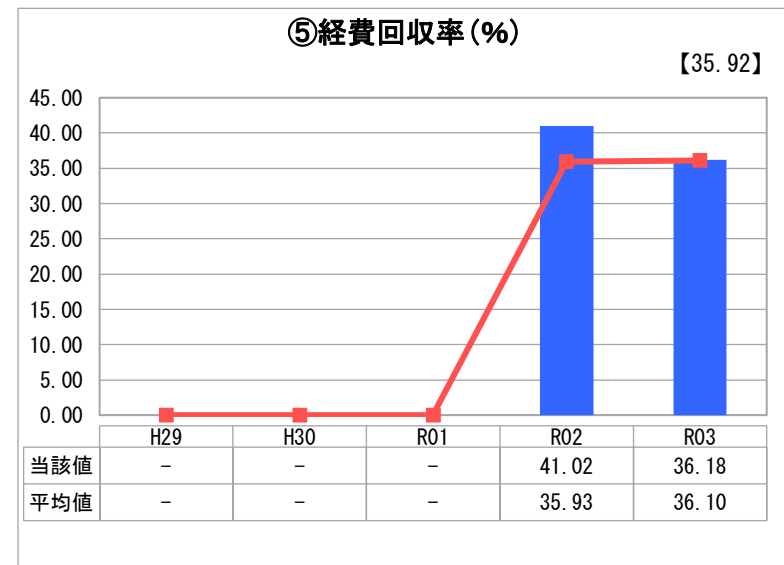
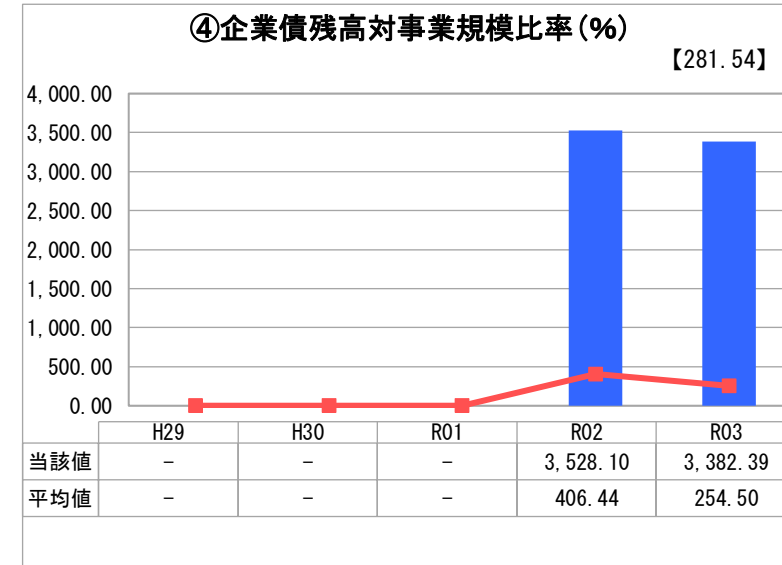
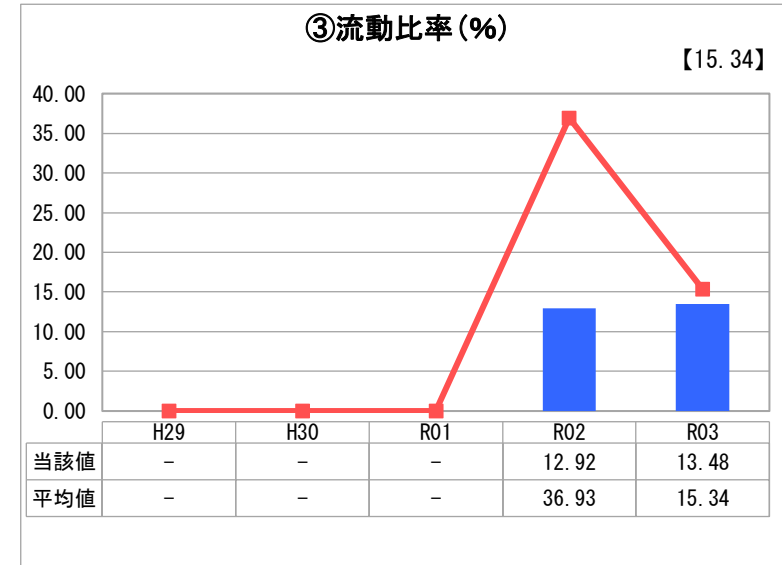
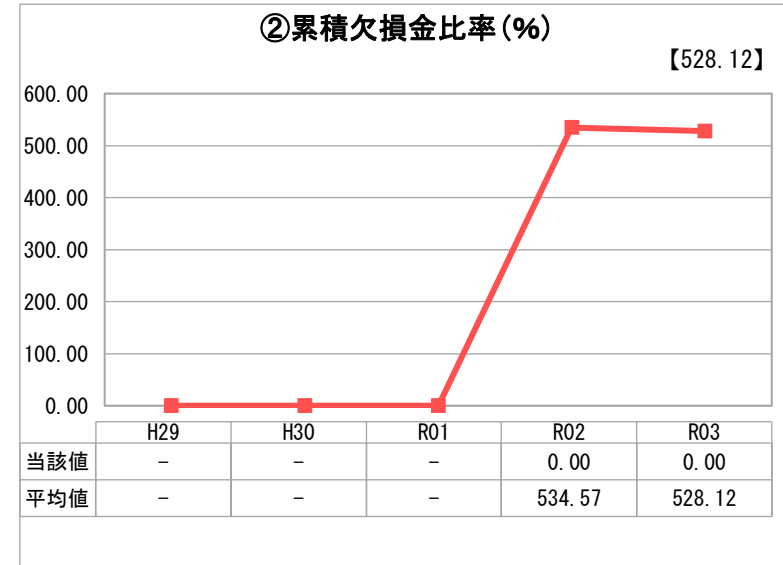
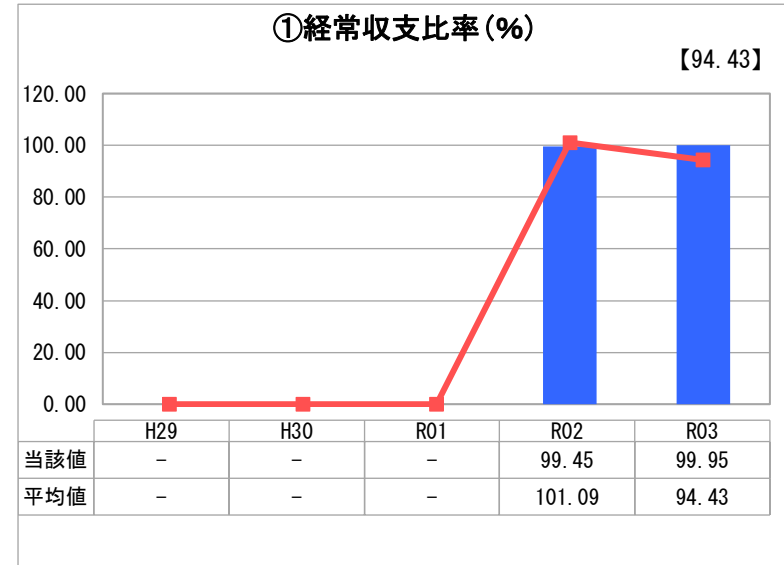
鳥取県 倉吉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	58.78	0.06	100.00	3,531

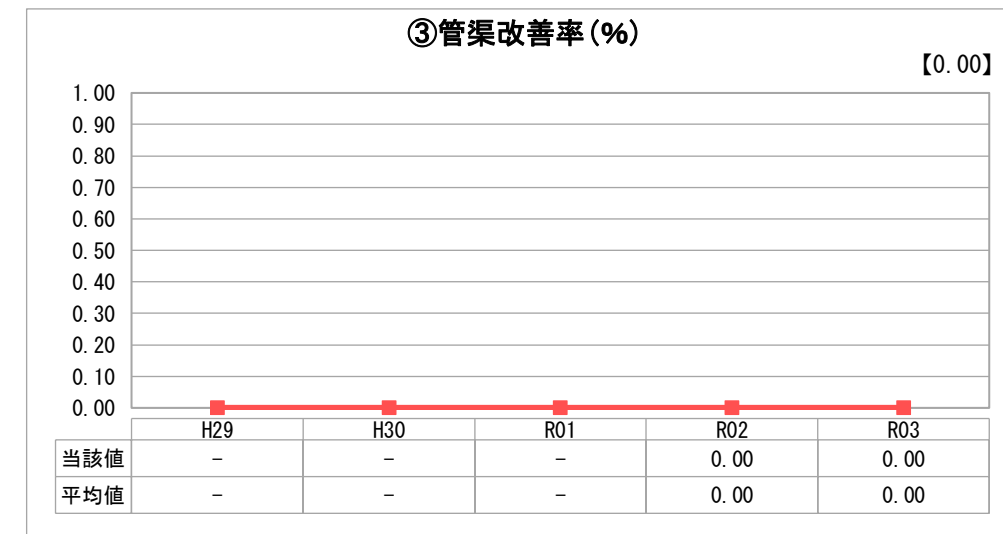
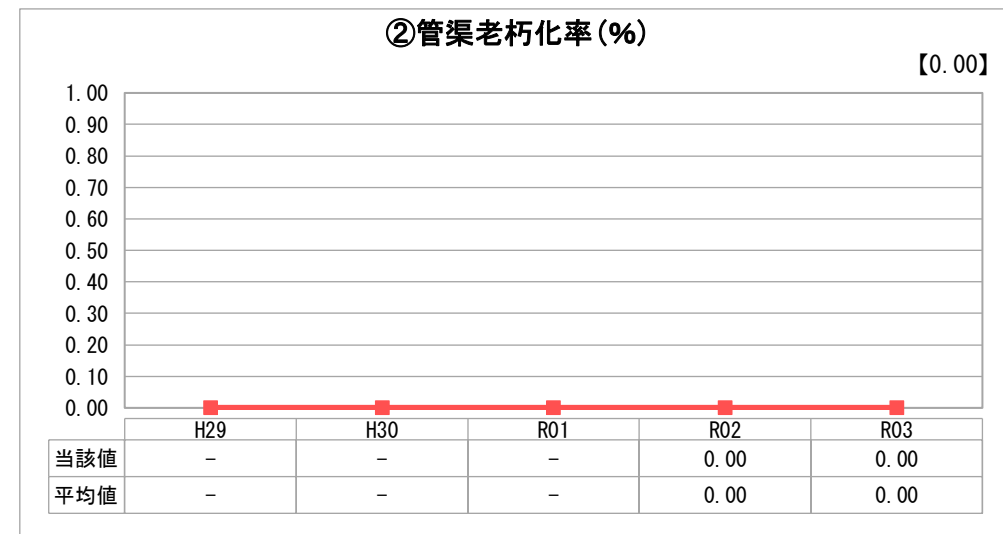
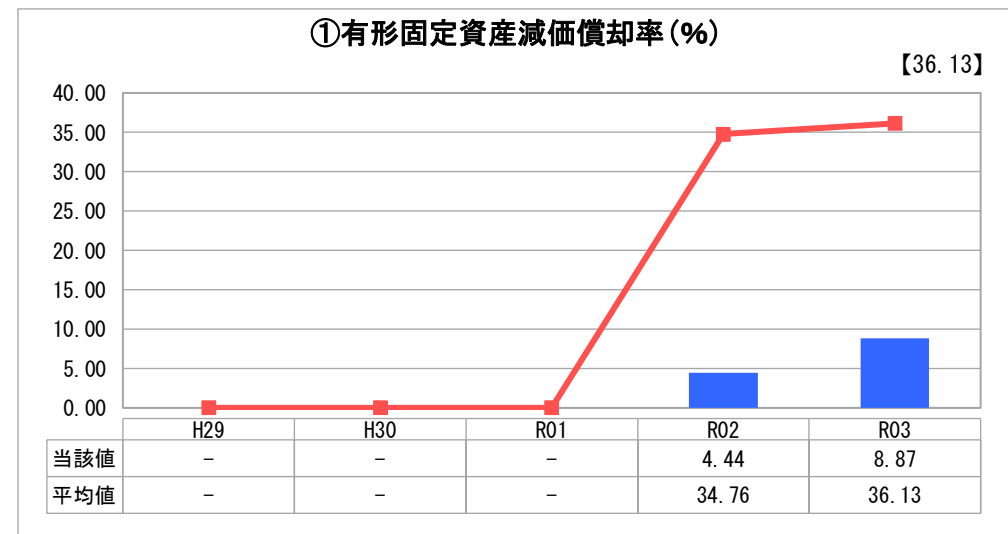
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,574	272.06	167.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
26	0.01	2,600.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度から地方公営企業法を適用している。

①経常収支比率は、一般会計からの補助金により、おおむね100%となっている。

②累積欠損金比率は、欠損金が発生しておらず0%となっている。

③流動比率は、流動負債のほとんどが企業債であり、これを控除すると100.85%となり100%以上となる。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体よりも比率は高いが、今後の地方債残高は減減を見込む。ただし、これから機器の更新時期を迎えるため、緊急性等を考慮し、過剰投資とならないよう検討が必要。

⑤経費回収率と⑥汚水処理原価は、人口減少により営業収益が年々減少していくため、4年ごとに使用料の見直しを行い、改善を図っていく。

⑦施設利用率については、晴天時一日平均処理水量が不明なため0%となっている。晴天時に限定せず一日平均処理水量とすると43.62%となる。

⑧水洗化率は、100%となっている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、法適用に移行して2年であるため低くなっている。

②管渠老朽化率は、現在0%である。当初の管渠布設時期は平成10年度であるため、しばらくは現状水準となる。

③管渠改善率については、平成9年度に事業を開始した比較的新しい施設・設備であるため、現状では目立った老朽は報告されていないが、機器更新の時期が間もなく到来するため、必要性・緊急性を検討した対応が必要。

全体総括

人口減による使用料収入の減が見込まれる。また、今後必要とされる管渠更新事業費等、多額の投資が必要となり、経営状況の悪化が懸念される。

4年ごとに使用料の見直しを行い、収支バランスを図っていくとともに、処理施設機器の更新や、平成初期に整備した管渠の更新が15年～30年の内に必要となることから、事業継続に向けた検討が必要。

また、元々の集落規模が小さいことから、今後の財源確保が課題。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。